

第2章

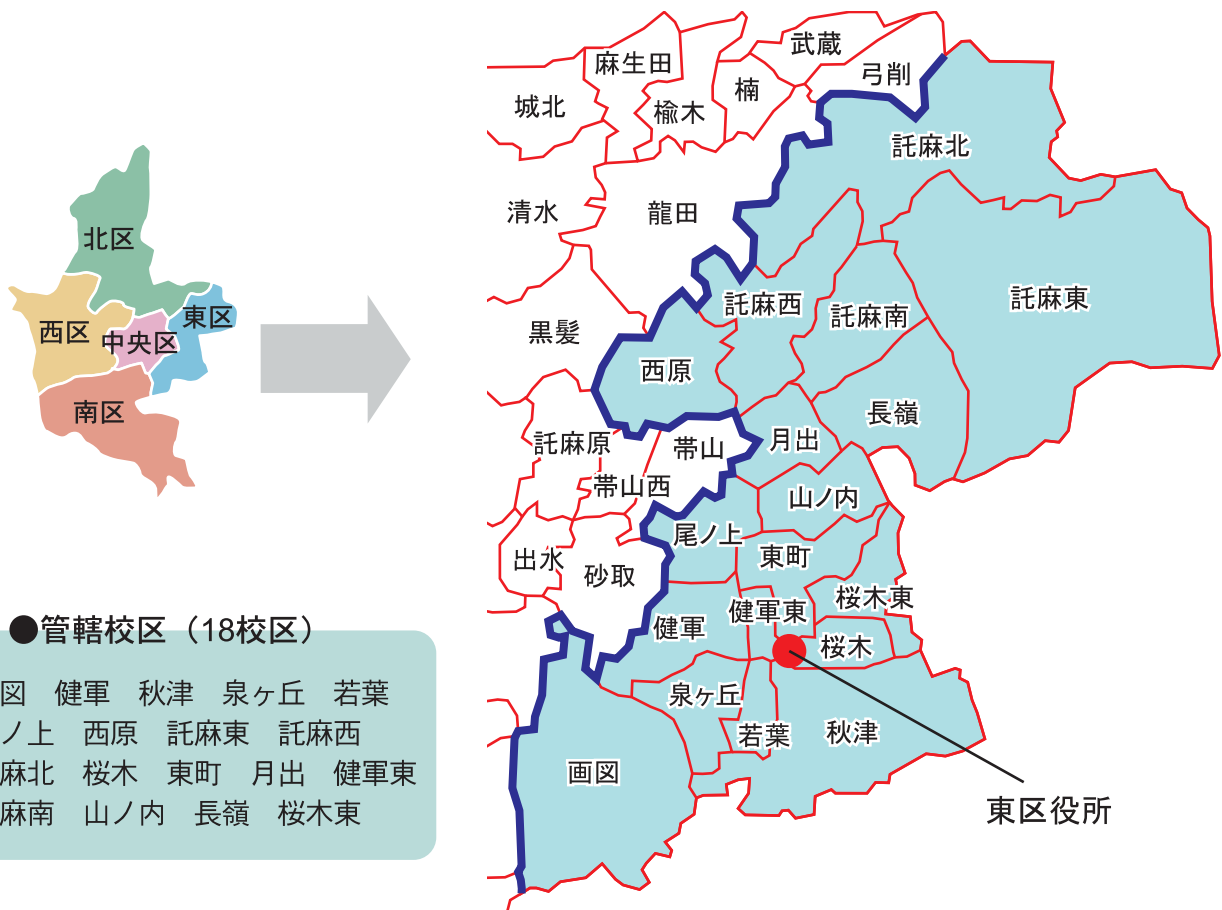
区の概況、現状と課題

1 概況

① 位置と地勢

東区は、熊本市の東部に位置し、5つの区の中では最も人口の多い区となります。

区域内には九州自動車道がほぼ南北に延びており、国道57号（通称東バイパス）や一般県道熊本空港線（通称国体道路）、主要地方道熊本益城大津線（通称第二空港線）、主要地方道熊本高森線（通称電車通り）等の主要幹線が走り、商業施設や医療機関、学校や福祉施設等も多く都会の姿を見せる一方で、北には託麻三山や運動公園、南には江津湖の自然が広がっており、都市の利便性と自然とが調和した住環境に優れた地域といえます。



② 人口・世帯の推移

平成22年国勢調査による東区の人口（確定値）は、188,082人です。

平成7年の国勢調査から比較すると年々増加しており、15年間で約11,000人増加し、現在も増加傾向にあります。

地域別にみると、区の北部地域は平成7年から増加しており、託麻北校区以外は現在も微増の状況にあります。

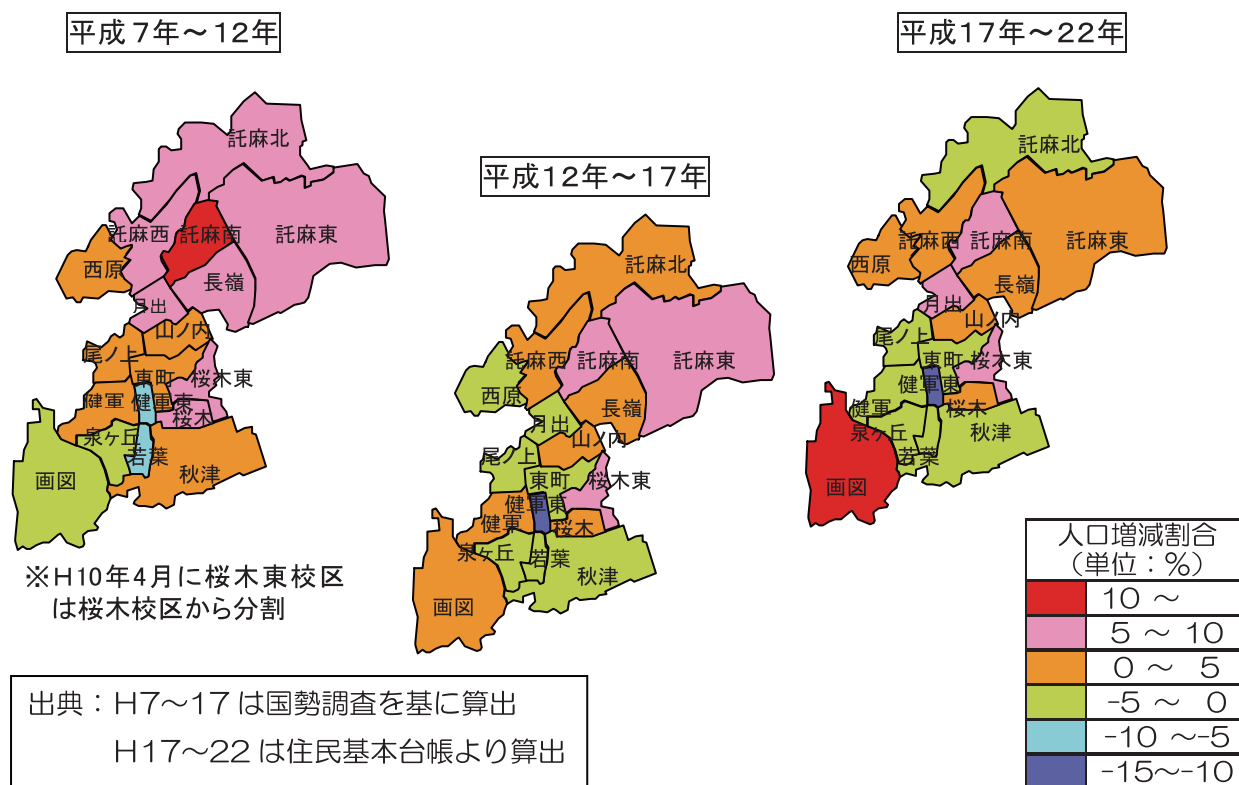
また、中央部の地域については、逆に全体的な減少傾向にあります。

また、南部地域については、桜木・桜木東校区で増加傾向にあり、画図校区については、区画整理事業の影響により、ここ5年間で約20%増加しています。一方、秋津・若葉校区については、ここ10年間で微減傾向にあります。

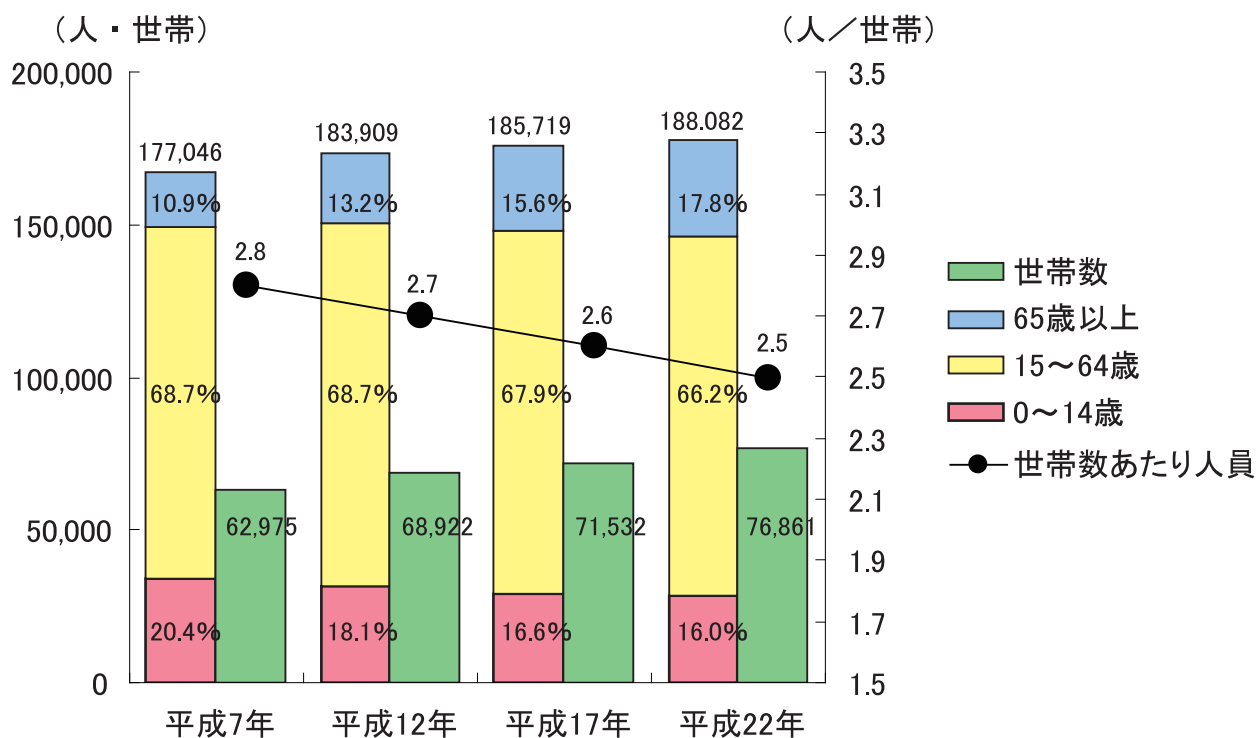
年齢構成別でみると、東区は他の区と比較すると若年層の割合が高いといえますが、推移をみると減少傾向にあります。高齢化率については、市全体で比較すると低い状況にあります。やはり年々増加傾向にあります。

東区の世帯数については15年間で約12,000世帯増加していますが、世帯当たり人員は約2.8人から約2.5人とやや減少傾向にあります。

●東区の校区別人口の推移



●東区の年齢構成別人口の推移



出典：H22 国勢調査の調査票情報を用いて
熊本市統計課にて独自集計

